

BOOK REVIEW

在宅医療のいろは

ストーリーで学ぶ訪問薬剤師業務

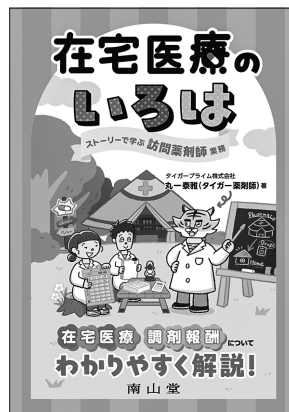
著：丸一泰雅（タイガー薬剤師）

タイガー薬剤師こと丸一泰雅先生著『在宅医療のいろは』は、これから在宅医療に取り組む薬剤師にとって最適な一冊だ。物語形式で始まり、その後に解説が続く構成により、自然な流れで理解を深められるのが特長である。登場人物「いろは」は新人薬剤師であり、奮闘する姿がリアルに描かれているため、特に1～2年目の若手薬剤師は、自身を重ねながら読むことができるだろう。

介護保険制度のしくみや限度額の考え方、在宅での服薬支援がどのように評価されるかといった内容が、作中のやりとりとリンクするかたちで解説されているため、「さっきの会話はそういう制度背景があったのか」と腑に落ちやすい。また、厚生労働省の資料が解説に併記されている点や、訪問指示書のダウンロードリンクが掲載されている点など、実務に直結する工夫も随所にみられる。

章末問題や図表によるまとめも理解を助け、薬歴や報告書についての現場目線のコメントも説得力がある。「薬歴は算定のためでなく実用的な記録であるべき」という著者の姿勢からも、誠実に在宅医療に向き合っているのだろう……というのが伝わってくる。

ただし、本書はあくまで初学者向けの入門書であり、すでに在宅医療を5年以上経験している薬剤師や、営業ノウハウを求める読者には物足りなさがあるかもしれない。しかし、制度を正しく理解し、実践に自信を



A5判／182頁

定価：3,300円（本体3,000円＋税10％）

発行：南山堂（2025年4月）

もちたいと願う若手薬剤師にとっては、まさに「いろは」から学べる良書である。机上の学習に加え、ぜひ本書を片手に現場経験を重ねてほしい。

株式会社 PASSMED 代表取締役

木元 貴祥